

《出演者プロフィール》

安来節保存会 関西支部

私たちは島根県発祥の民謡「安来節（やすぎぶし）」を関西地域で広め、次世代へと受け継ぐ活動を行っている。踊りや唄、どじょうすくいなど、伝統芸能の魅力を身近に楽しんでもらえるよう、定期的な練習・公演・ワークショップを開催中。安来節保存会 関西支部・東海支部・和歌山支部が合同で、万博のポップアップステージにて5日間にわたり安来節を披露いたします。

地域を越えて受け継がれる笑顔と躍動の舞台を、ぜひ会場でお楽しみください！

日時：2025年9月8日～12日（9:00～12:00予定）

場所：ポップアップステージ北



下坂社中 下坂 龍志（しもさか りゅうし）

昭和57年度富山民謡大会にて「越中おわら」で優勝。現在、NPO日本高齢者福祉音楽協会代表理事として、福祉施設への慰問やチャリティーコンサートを数多く実施。伝統芸能を通じて、音楽の力で人々の心に寄り添い続けている。しなやかで優雅な越中おわらの踊り、そして物悲しくも美しい音色を奏でる胡弓の演奏も交えながら、越中おわらの世界を五感でご体感いただきます。



民謡歌手 岡部 祐希（おかべ ゆうき）

祖母の影響で3歳から民謡を始め、関西の民謡のみならず、青森県民謡をはじめとした全国の民謡を得意とし、各地で演奏活動を展開。2017年には「第52回産経民謡大賞」にて内閣総理大臣賞を受賞、2023年には「津軽五大民謡全国大会」にて津軽小原節でグランプリを獲得するなど、数々の受賞歴を誇る。2019年には初代・播磨町ふるさとPR大使に就任し、令和4年度「若人の賞」も受賞。現在は演奏活動の傍ら、高校・大学での講義を通じて若手の育成にも力を入れており、公益財団法人日本民謡協会公認の民謡アンバサダーを3期連続で務める。兵庫県名人会会員。兵庫県立播磨南高等学校の非常勤講師（音楽）も務めている。



津軽三味線 中村 卓也（なかむら たくや）

姫路市出身の津軽三味線奏者。1歳でエイサーを始め、1歳半で初舞台を経験。

祖父 中村泰三に三味線と和太鼓を、さらに美鵬直三朗氏 美鵬流囃子方、津軽三味線は小田島徳旺氏に師事。全国大会で優勝経験を持ち、若くして高校生部門・一般部門を制覇。民謡・古典芸能の追求と並行して、幅広い世代へ三味線の魅力を発信。

現在は、民謡一家出身の二人による三味線ユニット「ROCKGEN-六弦-」で全国的に活動し、舞踊・太鼓・尺八など他ジャンルとの共演も行う。

津軽三味線の新たな可能性を切り拓く、孤高の若き奏者。



津軽手踊り 篠原 結（しのはら ゆい）

小学6年生

奈良を拠点に活動する津軽手踊りの若き踊り手。伝統の津軽手踊りを大切に、明るく元気に踊っています。



なわて子ども太鼓

「子ども達相互の友好を深めるとともに、将来四條畷市の文化活性に貢献してもらえよう」という想いから平成16年に「なわて子ども太鼓」は結成されました。地域の伝統文化を未来へと受け継ぐ存在として、子どもたちの健やかな成長と心の育成を目指しながら活動しています。現在は市内外のイベントやアトラクションに多数出演し、地域の顔として活躍中。礼儀や協調性を大切にしながら、力強く心に響く演奏で和太鼓の魅力を発信しています。

民謡歌手 進藤 聖子（しんどう さとこ）

民謡歌手／キングレコード所属／日本民謡 梅若流 聖の会 会主 大阪府出身。9歳より民謡の道に入り、梅若朝啄師のもと全国各地の民謡と三味線を学ぶ。

平成12年、「南部牛追唄」で産経民謡大賞・内閣総理大臣賞を受賞。平成14年にはキングレコードより「進藤聖子民謡集」でデビュー。以降、安来節全国大会日本一をはじめ数々の賞を受賞し、民謡界の第一線で活躍を続けている。

テレビ・ラジオ出演のほか、海外公演、福祉施設での慰問コンサート、舞台での脚本・演出など幅広い活動を展開。令和元年には、自身の流派「日本民謡 梅若流 聖の会」を設立し、後進の育成にも尽力している。



胡弓 梅若 晶子（うめわか あきこ）

秋田三味線奏者・梅若梅朝を父に、民謡家元でコロムビアレコード専属歌手の梅若孝子を母に持ち、伝統音楽の環境で育つ。

1991年に津軽三味線奏者・竹田傑師に師事、2002年にはオランダ・ベルギーでのコンサートツアーに全14公演出演。2005年より日本民謡梅若会の副会主を務め、2007年より胡弓奏者・加賀山昭師に師事し、全国大会での受賞歴も多数。

2011年にはコロムビアレコードより「心から歌へ」をリリース。ギターユニット『音緒ストリング』結成や、伊藤多喜雄 TAKIO Band ツアー参加、細川たかし・長山洋子コンサート出演など多彩な音楽活動を展開。各種コンサートやテレビ・ラジオ出演を重ねる。



米谷流尺八大師範 米谷 大輔（よねや だいすけ）

幼少の頃、母（梅若啄泰）の影響を受け民謡を始める。

小学5年～林佑喜雄師門下の山本佑昌師・佑佳師に尺八の手解きを受ける。

平成8年～上京し米谷威和男師・小杉真貴子師の内弟子となり

民謡・尺八の習得に励む。

平成12年～名取を許され、「米谷大輔」となる。

平成16年～8年の内弟子修業を終了し、地元大阪へ戻る。

平成26年～米谷流尺八大師範を許される。

現在、NHK民謡テレビ番組・ラジオ放送名曲アルバム・演歌歌手ステージ出演・レコーディング・民謡発表会、教室、他活動中。



津軽三味線 飯田 華那（いいだ はな）

日本民謡藤本流三味線の大師範である祖母・藤本春玖美の影響で幼少期より藤本流三味線を学び13歳で津軽三味線に魅了され転向。

15歳より津軽三味線奏者・山中信人師に師事し

令和2年に津軽三味線山中流名取師範「山中信那」を襲名。津軽三味線全国大会で数々の賞を受賞。

関西を拠点に地域のイベント出演や伝統文化の普及に努める一方海外公演や、他分野のアーティストとの共演を通じ津軽三味線の新たな可能性を追求。

演奏を通じて人々に喜びや感動を届けられることを何よりの励みとし、活動を続けている。

